職業実践専門課程等の基本情報について

		改	置認可年月	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長名			所在地				
広島工業大学専	門学校	昭和	和59年1月1	4日 佐藤	隆吉	(住所)	733-8533 広島県広島市西区福	富島町2-1-1				
設置者名		設	立認可年月	日 代表	者名		082-295-5111	所在地				
学校法人鶴学	遠	昭和	□32年11月2	27日 鶴	衛	(住所) 月	731-5193 広島県広島市佐伯☑	区三宅2-1-1				
分野		認定課程名	ጀ	認定学科	名	(電話) (082-921-3121 日士認定年度	高度専門士認定	在度	職業宝跬重	享門課程認定年度	
工業		業専門課		土木工学			27(2015)年度		.+/2		16(2014)年度	
		- * 41 114	(1±	工作工 1	171	1 //~	E/(2010/+/X		— — — — — — — — — — — — — — — — — — —			
学科の目的	企業にお	ける即戦力	となる人材を	育成することを目的と	とし、座学及	び実習科目を	を通じて建設に関する	「ものづくり」を担う学生	を養成する	0		
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	(取得可能 (中途退学	能な資格)土 至の現状)中	木施工管理 '途退学者	!技士補、測量士補、2 2名 中退率 6.5%	2級ビオトー	プ施工管理士	≿、無人航空従事者試	験、二等無人航空機操	織士(実地	免除)等		
修業年限	昼夜	全課程の	修了に必要 単位	な総授業時数又は総 位数	誰	義	演習	実習	実駆	è	実技	
2 年	昼間	※単位時間 かに記入	、単位いずれ	2,048 単位時間 単位	1,120	単位時間単位	0 単位時間	928 単位時間		単位時間単位	0 単位時間	
生徒総定員	生徒	実員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生割	引合(B/A)		•				
80 人	32	: 人		0 人	0	1 %						
	■卒業者		:	16		,						
	■就職希 ■就職者	·望者数 (D ·数 (E))) : :	14 14								
	■地元就	職者数(F		10		人						
	■就職率		h元計聯李《	100)割合 (F/E)		%						
				71		%						
	■卒業者	に占める就	職者の割合	(E/C)		%						
就職等の状況	■進学者			0		Ž						
370-130 47 AV DV DP	■その他											
	自己開拓	i 1名										
	(令和		(存在力率	老に聞する ^	和7年5月1日	時上の体制						
		職先、業界	6 年度卒業 ₹生	有に関する 守	和7年5月1日	時点の情報)						
				月1日時点の情報								
				建設㈱、あおみ建設	㈱、クボタ	建設、㈱ワー	-ルド測量設計 等					
	■日間の											
		-T /T 48 88	Mr L. > Mr —	±4.50 /m			Arr					
第三者に よる			等から第三 下について任				無					
第三者による 学校評価		な、例えば以			a de tr			価結果を掲載した				
					受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL				
学校評価 当該学科の	※有の場合	お、例えば以 評価団体:	下について任		受審年月:		評					
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合	な、例えば以	下について任		受審年月:		評					
学校評価 当該学科の	※有の場合 https://w	お、例えば以 評価団体: www.hitp.ac	下について任 :.jp/		受審年月:		評					
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 :.jp/ る算定)		受審年月:		評		2 048 8	単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	お、例えば以 評価団体: www.hitp.ac	下について任 :jp/ る算定) 数	意記載		喜業時数	評			単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 :.jp/ る算定) 数 うち企業等	意記載	習・実技の持	受業時数	評		288 🗎	単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 s.jp/ る算定) 数 うち企業等 うち企業等	意記載 を連携した実験・実 と連携した演習の授	習・実技の持	受業時数	評		288 <u>ii</u>	単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 :.jp/ る算定) 数 うち企業等	意記載 こと連携した実験・実 と連携した演習の授 楽時数	習・実技の ! 業時数		評		288 ± 0 ± 1,952 ±	単位時間単位時間単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 s.jp/ る算定) 数 うち企業等 うち企業等	意記載 ると連携した実験・実 と連携した演習の授 実時数 うち企業等と連携し	習・実技の打業時数 た必修の実験	険・実習・実	詳水		288 ± 0 ± 1, 952 ± 288 ±	単位時間単位時間単位時間単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ URL	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 ま.jp/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授	を連携した実験・実 と連携した演習の授 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	詳水		288 ± 0 ± 1, 952 ± 288 ± 0 ±	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ URL	※有の場合 https://w	京、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による	下について任 ま.jp/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授	意記載 ると連携した実験・実 と連携した演習の授 実時数 うち企業等と連携し	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	詳水		288 ± 0 ± 1, 952 ± 288 ± 0 ±	単位時間単位時間単位時間単位時間		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	※有の場合 https://v (A:単位	t、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による 総授業時刻	下について任 ま.jp/ る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修授	を連携した実験・実 と連携した演習の授 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	詳水		288 ± 0 ± 1, 952 ± 288 ± 0 ±	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間		
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等の実施状況	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 ま:p/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授 (うち企業	を連携した実験・実 と連携した演習の授 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	詳水		288 h 0 h 1, 952 h 288 h 0 h 64 h	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	※有の場合 https://v (A:単位	t、例えば以 評価団体: www.hitp.ac 立時間による 総授業時刻	下について任 ま:p/ る算定) 数 うち企業等等 うち必修授 (うち企業	意記載 と連携した実験・実 と連携した演習の授 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し 等と連携したインタ・	習・実技の打業時数 た必修の実!! た必修の演徒	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	詳水		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 ま:p/ る算定) 数 うち企業等等 うち必修授 (うち企業 章定) 数		習・実技の打業時数 た必修の実制 た必修の演覧 ーンシップの 習・実技の打	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	詳水		288 à 0 à 1, 952 à 288 à 0 à 64 à	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ)	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 ま:p/ る算定) 数 うち企業等等 うち必修授 (うち企業等等 数 うち企業等等を な うち企業等等を な うち企業等等を な うち企業等を な うち企業等を な うち企業等を な うち企業を な な な の の の の の の の の の の の の の	き記載 と連携した実験・実と連携した演習の授業等を連携した方面の授業等と連携した方面の授業等と連携しまります。 また、実際と連携したインタ・ にと連携した実験・実	習・実技の打業時数 た必修の実制 た必修の演覧 ーンシップの 習・実技の打	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	詳水		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 時間 単位 時間 単位 世位 世位 世位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれ)	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 ま:p/ る算定) 数 うち企業等等 うち必修授 (うち企業 章定) 数	を連携した実験・実と連携した演習の授業等と連携した方演習の授業等と連携した方の企業等と連携します。 また、主選携した大変等と連携します。 また、主選携したインタ・ を連携した実験・実 を連携した演習の授業等数	習・実技の打業時数 た必修の実際 た必修の演習・ ンシップの 習・実技の打業時数	後・実習・実 習の授業時数 の授業時数) 受業時数	技の授業時数		288 à 0 à à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位は時間 単位 単位 単位 単位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 ま:p/ る算定) 数 うち企業等等 うち必修授 (うち企業等等 数 うち企業等等を な うち企業等等を な うち企業等等を な うち企業等を な うち企業等を な うち企業等を な うち企業を な な な の の の の の の の の の の の の の		習・実技の打業時数 た必修の実際 た必修の演 ーンシップの 響・実技の打撃 乗時数 た必修の実際	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 受業時数 受業時数	技の授業時数		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施施大況れか	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 :.pp/ る算定) 数 うち企業業 等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等	を連携した実験・実と連携した演習の授業等と連携した方面の授業等と連携した方面の授業等と連携したうち企業等と連携したインターを連携した大変習の授業時数うち企業等と連携した方面の授業をと連携した方面の授業をと連携した方面の授業をと連携した方面の授業を表しませました。	習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の演 ーンシップの 響・実技の打撃 乗時数	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 受業時数 後・実習・実 習の授業時数	技の授業時数		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 世 単位 世 単位 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施施大況れか	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 :.pp/ る算定) 数 うち企業業 等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等		習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の演 ーンシップの 響・実技の打撃 乗時数	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 受業時数 後・実習・実 習の授業時数	技の授業時数		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施施大況れか	※有の場合 https://v (A:単位	・例えば以評価団体:www.hitp.ac立時間による総授業時刻立数による3	下について任 :.pp/ る算定) 数 うち企業業 等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等等	を連携した実験・実と連携した演習の授業等と連携した方面の授業等と連携した方面の授業等と連携したうち企業等と連携したインターを連携した大変習の授業時数うち企業等と連携した方面の授業をと連携した方面の授業をと連携した方面の授業をと連携した方面の授業を表しませました。	習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の演 ーンシップの 響・実技の打撃 乗時数	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 受業時数 後・実習・実 習の授業時数	技の授業時数		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 世 単位 世 単位 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	※有の場合 https://v (A:単位	t、例えば以 評価団体: www.hitp.acd 立時間による 総授業時動 総授業時動	下について任 2.jp/ る算定) うち企業等等 うち企必修授 (うち企業等等を うち企業等等を うち企必修授 (うち企業等等を うち企業等等を うち企業等等を うちを企業等を うちを企業を うちを企業を のする のするを のすると のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のする のするを のする のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを のするを	意記載 と連携した実験・実 と連携した演習の授 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ・ と連携した演習の授 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し 等と連携したインタ・	習・実技の打業時数 た必修の実践 ーンシップの 響・実技の打業時数 た必修の実践 ため修の演 を表現の表現 ため修の演 を表現 ため修の演 を表現 ため修の演 を表現 ため修の演 を表現 ため修の演 を表現 ため修の演 を表現	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 受業時数 後・実習・実 習の授業時数	技の授業時数		288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 世 単位 世 単位 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位 世 世 位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施施大況れか	※有の場合 https://v (A:単位	な 教による の を を を を を を を を を を を を を	下について任 京p / る算定) あ数 うち企企業業等 うちな必を企業業等等 うちな必を企業業等を うちな必を企業等等を でするのである。		習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の実験 である。 というでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数 受業時数 受業時数 後・実習・実 習の授業時数)	技の授業時数	ニームページURL	288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à â â â â	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位位時間 単位位 単単位 単位位 単位位 単位位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施洗状況	※有の場合 https://v (A:単位	t (例えば以 ・ (例えば以 ・ www.hitp.acd 立時間では、 立 を授業 ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の	下について任 京p / る算定) あ数 うち企企業業等 うちな必を企業業等等 うちな必を企業業等を うちな必を企業等等を でするのである。	意記載	習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の実験 である。 というでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数 受業時数 受業時数 後・実習・実 習の授業時数)	技の授業時数	ニームページURL	288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à å å å	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位位時間 単位位 単単位 単位位 単位位 単位位		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施洗状況	※有の場合 https://v (A:単位	な か な な な な な を を を を を を を を を を を を を	下について任 :jp/ る 数 うちを必 (うちを必 (うちを必 (うちを企 (うちを必 (うちを) (うちを必 (うちを) (() () () () () () () () ()	意記載 と連携した実験・実と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した演習の授業 素時数 うち企業等と連携した 等と連携した を実験・実 と連携した を実験・実 と連携した を実験・実 と連携した を表	習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の実験 である。 というでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実 習の授業時数) 受業時数 受業時数 後・実習・実 の授業時数) (専修学科	技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項	ボニムページURL (第1号)	288 à 0 à 1,952 à 288 à 1,952 à 288 à 64 à	単位時間 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単		
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施洗状況	※有の場合 https://v (A:単位	な か な な な な な を を を を を を を を を を を を を	下について任 (ま) かく (ま) かく	意記載 と連携した実験・実と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した演習の授業 素時数 うち企業等と連携した 等と連携した を実験・実 と連携した を実験・実 と連携した を実験・実 と連携した を表	習・実技の打業時数 た必修の実験 た必修の実験 に必修の実験 である。 というでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実 習の授業時数) 受業時数 受業時数 後・実習・実 の授業時数) (専修学科	技の授業時数	ボニムページURL (第1号)	288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 64 à â â â â	単位時間 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単		
学校評価 当該学科のホームページ URL と連びを選等等のよいです。 に記入)	※有の場合 https://v (A:単位	 (例えば以) 評価団体: www.hitp.ac 立 総授業時動 ① 専修担: 門で大年 ② 学士(下について任 :jp/ る 数 うちを必 (うちを必 (うちを必 (うちを企 (うちを必 (うちを) (うちを必 (うちを) (() () () () () () () () ()	意記載 を連携した実験・実と連携した演習の授業等を連携した演習の授業を連携したする企業等と連携したインター を連携した大演習の授業等を連携したインター を連携した大演習の授業等を連携したが表現との主義を企業等と連携したが表現をできる企業等と連携したインター はなるを修了した後、あっかは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの でを必修の実験 を必修の実験 た必修の実験 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	後・実習・実 習の授業時数) 力授業時数) 受業時数 後・実習・実 の授業時数) (専修学科	技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項	i第1号) i第1号)	288 à 0 à 1,952 à 288 à 1,952 à 288 à 64 à	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 単単位 単単位 単単位		
学校評価 当該学科のボームページ URL と連集施状か に記入) に記入)	※有の場合 https://v (A:単位	は、例えば以 評価団体: www.hitp.acd 立数による 総授業時動 を担当 して代限程の年 でで発程の年 ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一	下について任 :.jp/ る 数 うちな必 うちな必 うちな必 うちな必 (うちなか (うちなか (うちなか (うちなか (うちなか (うちなか (うちなか () () () () () () () () () () () () () (意記載 と連携した実験・実 と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した 等と連携した大演習の授業 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した うち企業等と連携し うち企業等と連携し るを修了した後、 あっ 知程に従事所に従事した期 る者等 験者	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの でを必修の実験 を必修の実験 た必修の実験 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	後・実習・実 習の授業時数) 力授業時数) 受業時数 後・実習・実 の授業時数) (専修学権 (専修学権	技の授業時数 技の授業時数 技の授業時数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	: 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号)	288 à 0 à 1,952 à 288 à 0 à 288 à 1,952 à 288 à 64 à 64 à 1 à 1 à 1 à 1 à 1 à 1 à 1 à 1 à 1 à	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 単単位 単単位 単単位 人 人		
学校評価 当該学科のホームページ URL と連びを選等等のよいです。 に記入)	※有の場合 https://v (A:単位	は、例えば以 評価団体: www.hitp.acd 立数による 総授業時動 を担当 して代限程の年 でで発程の年 ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一ので、第一	下について任 (学)	意記載 と連携した実験・実 と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した 等と連携した大演習の授業 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した うち企業等と連携し うち企業等と連携し るを修了した後、 あっ 知程に従事所に従事した期 る者等 験者	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの でを必修の実験 を必修の実験 た必修の実験 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	後・実習・実 習の授業時数) 力授業時数) 受業時数 会・実習・実 習の授業時数) (専修学科 (専修学科	技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	: 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	288 à 0 à 1,952 à 288 à 288 à 64 à â à à à à à à à à à à à à à à à à à	単位時間 単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単位 単位 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上		
学校評価 当該学科のホームページ URL と実等等の実施がれた況か に記入)	※有の場合 https://v (A:単位	t (M 元	下について任 (学)	意記載 と連携した実験・実 と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した 等と連携した大演習の授業 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した うち企業等と連携し うち企業等と連携し るを修了した後、 あっ 知程に従事所に従事した期 る者等 験者	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの でを必修の実験 を必修の実験 た必修の実験 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	後・実習・実 習の授業時数) 力授業時数) 受業時数 会・実習・実 習の授業時数) (専修学科 (専修学科	技の授業時数 技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	: 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	288 à 0 à 1,952 à 268 à 64 à 64 à 64 à 65 à 65 à 65 à 65 à 65	単位時間 単単単単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上		
学校評価 当該学科のホームページ URL 参楽習等との表別では、「た況の人」 企業習名、に記入) を表別では、「で記入)	※有の場合 https://v (A:単位	t (例えば以 www.hitp.acd 立	下について任 (学)	意記載 と連携した実験・実 と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した 等と連携した大演習の授業 業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した うち企業等と連携し うち企業等と連携し るを修了した後、 あっ 知程に従事所に従事した期 る者等 験者	習・実技の打 業時数 た必修の実験 た必修の実験 ーンシップの でを必修の実験 を必修の実験 た必修の実験 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	後・実習・実 習の授業時数) 力授業時数) 受業時数 会・実習・実 習の授業時数) (専修学科 (専修学科	技の授業時数 技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	: 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	288 à 0 à 1,952 à 288 à 1,952 à 64 à 64 à 64 à 65 à 65 à 65 à 66 à 66	単位時間 単単単単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上		
学校評価 当該学科のホームページ URL 参楽習等との表別では、「た況の人」 企業習名、に記入) を表別では、「で記入)	※有の場合 https://v (A:単位	 (例えば以) ()	下について任 (中) の (中)	意記載 と連携した実験・実 と連携した実験・実 素時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した うち企業等と連携した なと連携した大変 書いる。 など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、な	習・実技の打業時数 た必修の実験である。 というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	後・実習・実習の授業時数) 一受業時数 の授業時数 の受業時数 の受業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 のでは、「「「「「「「「「「「「」」」」 「「「「「」」」 「「「「「」」 「「「「」」 「「「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「」」 「「「」」 「「」」 「「」 「	技の授業時数 技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第48条第1項	: 一ムページURL (第1号) (第2号) (第3号) (第4号)	288 à 0 à 1,952 à 268 à 64 à 64 à 64 à 65 à 64 à 66 à 66 à 66	単位時間 単単単単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上		
学校評価 当該学科のホームページ URL と実等等の実施がれた況か に記入)	※有の場合 https://v (A:単位	t (M 元 ば 以	下に	意記載 と連携した実験・実 と連携した実験・実 素時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した うち企業等と連携した なと連携した大変 書いる。 など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、な	習・実技の打業時数 た必修の実験である。 というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	後・実習・実習の授業時数) 一受業時数 の授業時数 の受業時数 の受業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 のでは、「「「「「「「「「「「「」」」」 「「「「「」」」 「「「「「」」 「「「「」」 「「「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「」」 「「「」」 「「」」 「「」 「	技の授業時数 技の授業時数 技の授業時数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	: 一ムページURL (第1号) (第2号) (第3号) (第4号)	288 à 0 à 1,952 à 268 à 64 à 64 à 64 à 65 à 64 à 66 à 66 à 66	単位時間 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 人人人人人人人人人人		

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

測量・土木業界の現場において、リーダーの資質を持った中堅技術者を育成するため、企業等と教育課程編成委員会を開催し、人材の専門性に関する動向や、求められる専門知識・技術・資格等について意見や提言等を頂き、カリキュラム編成や授業内容・方法等の改善に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・ 向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設 置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。

- 当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。
- ①教育課程の編成及び実施
- ②教育計画に関する事項
- ③教材の開発等
- (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	ij	所 属	任期	種別						
佐藤隆	隆 吉	校長	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	-						
瀧口唇	各 倫		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_						
竹田	睦	1 <i>知 会 叫(</i> E	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_						
﨑	乎 智	1 + 	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_						
増 永 頂	直 規		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_						

令和7年3月31日現在

企業関係者委員 令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
大 東 延 幸	広島工業大学 工学部 環境土木工学科	令和5年4月1日~令和7年3 月31日 (2年)	(2)
大 木 達 則	OGI infotec株式会社	令和5年4月1日~令和7年3 月31日 (2年)	3

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
- (年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月、翌年2月

(開催日時(実績))

第1回 令和6年 6月4日 15:00~17:00(オンライン会議) 第2回 令和7年 2月4日 15:00~17:00(オンライン会議)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会等の意見	学科の対応
測量士補は技術者の基礎能力として必要である	測量士補資格取得者増に向けて対策を強化する。
施工管理技士など資格制度の変化している。他の資格にも波及するとみている	引き続き教員研修を充実させるなどを実施して、学生の資格取得向上に努める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

測量・土木業界における中堅技術者となるために必要となる専門的知識や技術の中において、特に、国土交通省等から求められている土木製図基準(案)・電子納品に基づいた作図技術等を習得させ、この専門分野に特化した設計コンサルタント・施工に関する知識を有する企業を選定し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

応用測量Ⅲ、土木CAD I・Ⅱ、安全運航管理、UAV基礎、を、企業連携科目として位置づけそれぞれ企業評価を受けると共に、これらの学習内容を総合的に活かした土木総合施工実習を中心的な企業連携科目として展開し、企業からの評価を受け実践力の養成を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

Γ	科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
	応用測量Ⅲ	ドローン操縦法など最新測量技術を学習する。	Ogi Infotec株式会社
	土木CAD I・II	土木図面の描き方の基礎からデータの修正方法までの基本的なCAD製図の考えた方習得する。	Ogi Infotec株式会社
	安全運航管理	ドローンの安全運航に関する法律知識などをPBL手法を 用いながらディスカッション形式で習得する。	ロイヤルコーポレーション

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、 また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示さ れた意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めるこ とを基本方針とする。教員の資質・指導力向上等については、「広島工業大学専門学校教員研修に関する内規」に基づき、 専門能力向上および指導力向上を図るための研修を行うこととしている。

①企業が開催する研修会

②協会主催学術講演会·講習会·研修会

③業界団体主催の研修会

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等: 研修名: 中国地区測量技術講演会

期間: 令和6年6月24日 対象: 教員

内容

アスファルト合材に関する研修 連携企業等: 大林道路株式会社中国支店 研修名:

対象: 教員 期間: 令和6年6月25日

内容 アスファルト合材について品質管理手法および施工方法の理解を深める

研修名: ドローン資格更新講習会 連携企業等: ファームスカイテクノロジーズ

期間: 令和6年7月31日 対象: 教員 内容 農業用ドローン資格更新講習会および最新のドローンの状況について理解を深める。

令和6年度ビオトープ管理士セミナー 連携企業等: 公共財団法人日本生態系協会 研修名:

期間: 令和6年8月01日~令和6年8月31日 対象: 教員

内容 2級ビオトープ施工管理士の受験者を対象にしたビオトープ知識の向上に関する講習会

連携企業等: 公益社団法人 広島県専修学校各種学校連盟 研修名: 学生にむきあうための感情のコントロール・アンガーマネジメント

期間: 令和6年11月20日 対象:教員

内容 学生の成長につながる指導について研修するため

ドローン検定 公認指導員研修 連携企業等: ドローン検定 研修名:

令和6年12月27日 対象: 教員 期間:

公認指導員の技術向上研修 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

コミュニケーション能力の育成(仮題) 連携企業等: 広島国際大学 久次弘子 研修名:

期間: 令和6年8月22日 対象: 教員

内容 学生のコミュニケーション能力について理解を深め、学生指導の支援につなげる。

令和6年度文部科学省教育研修活動費補助事業「管理者研修会」 連携企業等: 全国専修学校各種学校総連合会 研修名:

期間: 令和6年12月18日 対象: 教員

学校教育法の改正をはじめ、第三者評価に係る内容まで、専修学校に係る動向について、情報共有を行った。 内容

連携企業等: 鶴学園 研修名: 情報セキュリティ研修

令和7年2月6日 対象: 教員 期間:

内容 学校における情報セキュリティの重要性と仕組みなどを理解し、日常業務のセキュリティ向上を図る。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 測量技術関連講演会 連携企業等: 測量の日実行委員会

期間: 令和7年6月 対象: 教員

例年広島地区においては測量技術講演会が開催されており、本年度も近隣企業の取り組みや建設DXなど業界の 内容 取り組みなど事例を交え、その知識を学生にどのように指導し教授すればよいのかなどの目的で研修に参加する。

②指導力の修得・向上のための研修等

「字生のやる気を引き出す言葉の刀 ~ヘッノトーノ~」 連携企業等: K·mind 代表 松永 佳世子 研修名: (仮題)

期間: 令和7年8月21日 対象: 教員

字生のハフォーマンスを引さ出すコミュニケーンヨン方法について埋解を深め、字生指導の支援につなけ 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動を評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。

当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ①自己評価の内容
- ②自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③学校運営に向けた取り組み
- ④重点的教育の取り組み内容

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念·目標·育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献·地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果並びに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課 程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な 職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

学校関係者委員

下队因 水石 女 只				リガルキッカットロシに圧
名	前		役職・所属	職責等
佐藤	隆吉	1	校長	学校関係者評価委員会委員長
瀧口	啓 倫	į	教頭	委員
竹 田	睦	ž	教育部長	委員

今和7年3日31日現在

企業関係者委員 令和7年3月31日現在

名	前		所 属	任期	種別
ДП	健	治	学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校	令和6年4月1日~令和8年3月 31日 (2年)	高校
松尾	達	憲	一般社団法人 広島県情報産業協会	令和6年4月1日~令和8年3月 31日 (2年)	業界団体
吉川		滋	公益社団法人 日本照明家協会中国支部	令和5年4月1日~令和7年3月 31日 (2年)	業界団体
濵 井	保	徳	テンパール工業株式会社	令和5年7月1日~令和7年3月 31日(2年)	企業
宮内	秀	実	河井建設工業株式会社	令和5年4月1日~令和7年3月 31日 (2年)	企業 地域
大 畠	晋	也	広島工業大学専門学校同窓会	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: https://www.hitp.ac.jp/ 公表時期: 令和7年9月30日

⁽例)企業等委員、PTA、卒業生等

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
ガイドノインの項目	
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

職業実践専門課程に関する情報は、各種メディアを通じて提供しています。

URL: http://www.hitp.ac.jp/	随時更新(職業実践専門課程認定に伴う更新 7月、12月)
学習プレゼン大会(学校行事)の開催	2月(職業実践連携企業、内定先企業、高等学校、保護者、新入学生等に広く案内)
学校案内パンフレット	4月以降配布(入学希望者向け)
就職案内パンフレット	3月以降送付(求人企業向け)

授業科目等の概要

	(_	L業	専門	課程土木工学	科)令和7年度											
		分類	į						授	業力	法	場	所	教	員	
		選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義		実験・実習・実技		校外			企業等との連携
1	0			生き方講座Ⅰ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身に付ける。	1 前	32	1			0	0		0		
2	0			生き方講座Ⅱ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身に付ける。		32	1			0	0		0		
3	0			生き方講座Ⅲ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身に付ける。	2 前	32	1			0	0		0		
4	0			生き方講座Ⅳ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身に付ける。	2 後	32	1			0	0		0		
5	0			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」 等の作成能力を育成すると共に、論理的な思 考を養う。	1 前	32	2	0			0			0	
6	0			コンピュータ 実習 I	建設関連の設計計算・積算等の業務において、コンピュータ等のシステム機器に順応できるようコンピュータの基礎を理解させる。	1 前	32	1			0	0			0	
7	0			コンピュータ 実習 II	建設関連の設計計算・積算等の業務において、コンピュータ等のシステム機器に順応できるようコンピュータの基礎を理解させる。	1 後	32	1			0	0			0	
8	0			測量学Ⅰ	基準点測量の概要、計画・準備(作業工程)、測定機器(原理、取扱、検定)、測定、計算・整理、特殊な測量(梅屋、太陽、時計法等)、管理(施工管理、精度管理)水準測量の概要、計画・準備、測定機器、測定、計算・整理、特殊な測量(交互水準測量)、管理(施工管理、精度管理)などを学	1	64	4	0			0		0		
9	0			測量学 I 実習	基準点測量の概要、計画・準備(作業工程)、測定機器(原理、取扱、検定)、測定機器(原理、取扱、検定)、測定、計算・整理、特殊な測量(梅屋、太陽、時計法等)、管理(施工管理、精度管理)水準測量の概要、計画・準備、測定機器、測定、計算・整理、特殊な測量(交互水準測量)、管理(施工管理、精度管理)などを学習せる	1 後	96	3			0	0	0	0	0	

10	0	測量学Ⅱ	地形測量の概要、図式、編集等などの地図製図の技法、観測方法,写真測量に関する基本的な知識を習得する。写真測量の概要、計画・準備、測定機器、測定(撮影、判読、現場調査、管理(施工管理、精度管理)、現ま一トセンシング, 地図編集の概要、国土基の関立、規定、地図投影の概要、各種投影法の特徴・計算・座標等及び地理情報システムを学習する	1 後	64	4	0		0		0		
11	0	測量学Ⅱ実 習	地形測量の概要、図式、編集等などの地図図の技法、観測方法、写真測量に関する。写真測量の概要、図式、編集等などの地区を記憶を習得する。写真測量の概要、測定(撮影、判定機器、測定(撮影、判議と管理(施工管理、精度管理)、明報等では図編集のでは、明報を表現の表表を受います。と、地図投影の概要、各種投影法の特徴・計算・座標等及び地理情報システムを学習する。	2	32	1		0	0		0		
12	0	UAV基礎	無人航空機に関する基礎的な知識を習得す る。	1 前	32	2	0		0		0		
13	0	UAV応用	無人航空機の利活用など現場で求められる最 低限の知識・技術を学習する。	1 後	32	2	0		0		0		
14	0	安全運航管理	無人航空機を運用する際のリスクや安全に飛 行するための方法について学習する。	2 後	32	2	0		0		0		0
15	0	UAV関連 法	無人航空機を操縦する際に必要な法律や条例 に関する内容を事例を交えながら学習する。	2 前	32	2	0		0		0		
16	0	U A V操縦法 I	無人航空機を操縦するための方法を学習す る。	1 後	64	2		0	0		0		
17	0	UAV操縦法 II	無人航空機を操縦するための方法を学習す る。	2 前	64	2		0	0	0	0	0	0
18	0	土木製図	手書きによる基礎的な製図能力と実習を通して土木構造物の理解、読図の技能基礎力を養成することを目指す。又、2級土木施工管理技術検定試験の共通工学の内、「設計図書」に対応できる学力を養成する。		32	1		0	0			0	
19	0	土木CADI	建設現場で必要な図面の作成法を学習する。 基礎作図練習、測量図面、土木構造物等	1 後	32	1		0	0			0	0
20	0	土木CADI	建設現場で必要な図面の作成法を学習する。 基礎作図練習、測量図面、土木構造物等	2 前	64	2		0	0			0	0
21	0	土木情報処理	建設現場で必要な情報処理技術を学習する。 EXCELによる測量計算、土木計算、CA LS関連に必要な知識など	2 後	32	1		0	0		0		
22	0	構造力学 I	土木構造物の設計に必要な力学の基礎的な 知識を修得し、各種構造物の設計計算の応用 力を養う。		32	2	0		0		0		
23	0	構造力学Ⅱ	土木構造物の設計に必要な力学の基礎的な 知識を修得し、各種構造物の設計計算の応用 力を養う。		32	2	0		0		0		

24	0	水理学	河川構造物の設計、河川河道計画等に必要な水理学の基礎知識を修得する。静水圧、浮力、流れの種類、連続の法則、ベルヌーイの定理、開水路の等流・不等流、管水路の流量、損失水頭など	1	32	2	0		0	0	
25	0	土質工学	土木構造物の設計及び安定計算に必要な地盤 の力学の基礎知識を修得する。土質の基本的 性質、圧密現象の機構、土中の応力モールの 円、土の努断、土庄分布、地盤の支持力、斜 面の安定など	1	32	2	0		0	0	
26	0	都市計画	都市計画の目標及びその内容について概説 し、さらに都市計画の中で土地利用計画、都 市交通計画の構成と立案の過程を示し、都市 計画に関する諸問題について学習する。	1	32	2	0		0	0	
27	0	生態学	生態系に関する基礎知識やビオトープに関する基礎的な内容を学習する。	1 前	32	2	0		0	0	
28	0	ビオトープ 論	ビオトープで求められる考え方や基礎知識を 学習する。	1 前	32	2	0		0	0	
29	0	ビオトープ 施工法	ビオトープ施工に関する基礎知識や生態系に 優しいものづくりの技術者を育成する基礎知 識を学習する。		32	2	0		0	0	
30	0	コンクリー ト工学 I	コンクリートは建設材料として最も主要な材料であるため、その性質についての基礎的知識を修得する。		32	2	0		0	0	
31	0	コンクリー ト工学Ⅱ	鉄筋コンクリートは建設材料として最も主要 な材料であるため、その性質についての基礎 的知識を修得する。		32	2	0		0	0	
32	0	河川工学	河川用語の理解、河川管理施設等の設計、施工、管理に必要な基本的考え方を習得する。 又2級土木施工管理技術検定試験の「河川・ 砂防及びダム部門」に対応できる学力を養成 する。(河川法含む)	2	32	2	0		0	0	
33	0	道路工学	道路全般にわたり種類、関係法規、線形計算、構造設計と施工、舗装、その他付属施設等の基本的な事項を学ぶ。	2 前	32	2	0		0	0	
34	0	橋梁工学	橋梁の種類と構造、橋梁に使用する材料の種類と強度及び許容応力度、設計荷重等について理解させ、橋梁の設計能力を修得させる。	2 前	32	2	0		0	0	
35	0	ランドス ケープデザ イン	造園施工に必要な基本知識を学習する。	2 前	32	2	0		0	0	
36	0	地下空間工 学 I	土質力学の知識を応用し、構造物における基 礎構造の設計法の基本的考え方を修得する。	2 前	32	2	0		0	0	
37	0	地下空間工 学Ⅱ	土質力学の知識を応用し、構造物における基 礎構造の設計法の基本的考え方を修得する。	2 後	32	2	0		0	0	

38	0	土木施工法	土質力学の知識を応用し、構造物における基 礎構造の設計法の基本的考え方を修得する。	1 後	32	2	0		0	0		
39	0	土木施工法 Ⅱ	建設工事に必要な施工法、特に土工関係を中心に学習し、工事現場にて即応できるように する。		32	2	0		0	0		
40	0	土木施工法Ⅲ	建設工事に必要な施工法、特に土工関係を中心に学習し、工事現場にて即応できるように する。		32	2	0		0	0		
41	0	建設機械	工事の計画、又は設計する際に必要な建設機械に関する特徴、使用方法、作業能力、機械経費の算定等について理解させ、機械化施工の実務的知識を修得させる。	2	32	2	0		0	0		
42	0	土木法規	建設工事の設計・施工には多くの法律・規則 等で規制を受けていることを理解させる。	2 前	32	2	0		0	0		
43	0	土木設計演 習 I	設計書類作成に学習し、工事現場にて即応で きるようにする。 	2 前	32	1		0	0	0		
44	0	土木設計演 習Ⅱ	設計書類作成に学習し、工事現場にて即応で きるようにする。	2 後	32	1		0	0	0		
45	0	土木設計積算	建設工事・発注と受注に積算が契約につながる業務の一環であることを理解させ、直接工事費・共通仮設費の積算が施工の適正な品質・安全・管理と利潤に大きく影響することを学び積算手法を修得する。	2	32	1		0	0	0		
46	0	土木材料実 験 I	金属材料及びコンクリート材料の性質を調べる基本的な実験を行い、材料の性質に関する基礎知識を体験的に学習する。また、この実習を通して実験の心構え、機器の取り扱い、データのまとめ方やレポートの書き方を身に付けさせる。	1 前	32	1		0	0		0	
47	0	土木材料実 験 II	木材料の種類・特性及び物理的特性の基礎を 体系的に学習し、設計における材料の適正を 判断するための基準を学習する。		32	1		0	0		0	
48	0	資格対策講座 I	日本生態系協会が実施しているビオトープ施工管理士・ビオトープ計画管理士の受験のための対策講座を行う。	1 前	32	2	0		0	0		
49	0	資格対策講座 Ⅱ	国土交通省国土地理院が実施する測量士・測量士補およびドローン検定協会主催の無人航空従事者試験の受験のための対策講座を行う。	2	32	2	0		0	0		
50	0	資格対策講座 Ⅲ	国土交通省所管の土木施工管理技術検定、造 園施工管理技術検定、管工事施工管理技術検 定の受検のための対策講座を行う。	2 後	32	2	0		0	0		
51	0	土木総合実習	ものづくり実習として、土木を中心とした構造物を設計段階から計画し、施工に至るまでの過程を実習より学習させる。		64	2		0	0	0		
52	0	土木数学 I	建設分野で必要な数学知識を学習する。	1 前	32	2	0		0		0	

53	0		土木数学Ⅱ	建設分野で必要な数学知識を学習する。	1 後	32	2	0			0			0	
54		0	インターン	実際の現場において、工事の段取り、仮設備、施工方法、工程管理、出来高管理、品質管理、安全管理等を直接体験し、即戦力となる知識を修得する。(夏休みに10日間)	1 後	64	2			0		0	0		
55		0		国土交通省所管のドローン国家資格である、 無人航空機操縦士実地講習講座を行う。	2 後	32	1			0		0	0		
		合	<u></u>	55	杉	目		2	048	単	位時	間	99	単位	立

卒業要件及び履修方法	授業期間等	手
卒業要件: 所定の修業年限以上在学し、卒業に必要な単位数を修得した者	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。